

会則前文

新英米文学会は、英語を媒体とする文学や文化を単なる机上の対象としてではなく、われわれ一人一人の生活や活動に密接に関わる対象として捉え、研究していこうとする人びとを中心に、新英米文学研究会として 1970 年の冬に東京で発足した。われわれは今後もこの精神を引き継ぎ、英語を媒体とする文学や文学の紹介・研究を通じて、われわれの生活や仕事の場である日本のならず、世界の諸文化の民主的な創造と発展に寄与していきたいと考えている。

新英米文学会は、外国語としての英語を媒体とする文学や文化を研究する者にとって、対象に対して自主的な批評精神をもつてのぞむことが不可欠の方法的前提であると考えている。しかし、だからといって、われわれは、ナショナリズムや排外主義に立つ研究を標榜するものではない。対象に対する迎撃的ではない、自主的に接した上で得られる共感をこそ尊重したいのである。われわれは諸国民、諸民族の地球的規模の共生と共同を強く願っているが、そのような共生・共同は自主性とそこに基づく共感を基礎とする対話を通じて展望されなければならないであろう。

したがって新英米文学会は、われわれの自主性や自主性に立つ共感を阻害するさまざまな要素に対して、無自覚、無反省であってはならないと考えている。もしわれわれが、たとえば、既存の研究・教育体制や学問的因習、内外の学問的権威、マスメディアが演出する文化的流行などに安住し、自己点検を怠るならば、また民族、ジェンダー、階級、地域などにかかわる固定観念や偏見、政治的もしくは宗教的な排他性などに対して無自覚、無批判であるならば、自主的で対等な開かれた研究や交流に障害が生じかねないであろう。

ひるがえってわれわれは、われわれの研究対象のみならず、われわれの採る研究方法も、つねに何らかの政治性を帯びずにいないことを自覚しないわけにはいかない。新英米文学会が、文学の鑑賞や研究を狭義の文学的主観の内部にとどめておくよりは、研究対象および方法論の歴史的社会的次元を掘り下げ、民族、ジェンダー、階級、地域、国家、政治、環境など、人類の未来にかかわる諸問題への自覚的関与を深め広げることによって、時代を捉え、人類の共生・共同を展望しうる方法論の模索と検証をつづけていくことが不可欠であると考えゆえんである。

新英米文学会の運営原則は民主主義である。思想信条や研究領域はもとより、年齢や性別、所属や職業、居住場所や国籍、研究活動への参加可能性など、さまざまに条件を異にする会員各自は、そうした差異を越えて、本会のさまざまな研究活動において平等な機会を与えられるように、また信頼関係を築きうるように、相互に努力をあらわなければならない。また、その上で、緊張をともなう切磋琢磨や相互批判も、ひるむことなく行われなければならない。

新英米文学会は、上に掲げた目的に寄与できるような研究活動を集団的に創造するために、英語を媒体とする文学や文化の研究を志す人々が広く結集するよう呼びかけたい。